

2019年度公益社団法人日本小児科医会事業報告

I. 公益目的事業

1. 乳幼児学校保健委員会

(1) 調査研究事業

事業名称：米国 Bright Futures をモデルとした就学以降の健診システムの導入に向けた研究

目的：就学以降の子どもたちを、家庭や学校など子どもたちを取りまく生活環境から支えることを目指す

内容：2020年度を目標に、小児科診療所において就学以降成人に至るまで、心身の健康、生活環境の確認を含む健康診査を行うための指針を作成する

方法：Bright Futures を参考とし、委員会内での検討を行う。日本小児科学会・厚生労働省との情報交換を行う。また、米国在留経験者などから情報収集を行う。

実施時期：2019年4月～2020年3月

委員会開催：2019年6月9日（京都）、6月23日、9月16日、2020年1月13日

実施状況

委員会としての作業：現在委員会で作成中の、就学以降の子どもたちのチェックリストを完成させる。

小学低学年、中学年、高学年、中学生、高校生の5つのグループで作成したものを、基準の様式に揃えて作成する。小学生については、保護者のチェックリスト作成も併用。子どものチェックリストは男女別で作成する。このチェックリストを含めて、Bright Futures の精神や考え方、そしてチェックをされた項目に対する指導内容等に関する情報提供などを掲載した冊子作りを目指す。

研究班（「Biopsychosocial に健やかな子どもの発達を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究」班：岡班）における研究協力者として、福岡県久留米地区における二種混合ワクチン接種者を対象とした、学童の保健指導のパイロットスタディを岡班の班員であり久留米大学小児科の永光信一郎先生と進める（当初本年6月から開始予定としていたが、現状から延期する）。

(2) 学術集会及び研修会事業

事業名称：第9回日本小児科医会乳幼児学校保健研修会

実施時期：2019年9月15日（日）

目的：乳幼児保健・学校保健に関する診療技術向上の意義、重要性を啓発する

テーマ：小児科医として知っておきたい学童・思春期の健康教育

対象者：会員並びに非会員医師、研修医等

参加者：210名

場所：三井住友銀行東館ライジングスクエア SMBC ホール

財源：参加費（会員1万円、非会員1万5千円、研修医・医学生は無料）

委託先：JSFIT 株式会社

プログラム：

1) やってみたいくなる健康教育

岡山大学大学院教育学研究科 教授 伊藤武彦

2) 小児がんについての基礎知識

宮崎大学医学部 発達泌尿生殖医学講座 小児科学分野 教授 盛武 浩

・ランチョンセミナー

養護教諭が主導し学校医が支援する健康教育実践例

静岡県小山町立小山中学校 養護教諭 臼井悦子

4) 喫煙防止教育

東京都医師会 会長 尾崎治夫

5) 性教育（小学生対象）について

かわむらこどもクリニック 川村和久

6) 健康な性を育むための中高生の性教育

女性クリニック We!TOYAMA 種部恭子

7) 総合討論

本研修会を通して、がん教育、喫煙防止教育、性教育は、いずれも、それぞれ名前・言葉の通りの課題についての教育ではあるが、それぞれを通して、もっと大きな「生きる」、や「命の大切さ」を伝えることができる、そういう取り組みであることに気づかされた。

2. 学術教育委員会

(2) 学術集会及び研修会事業

1) 事業名称：第30回日本小児科医会総会フォーラム

目的：小児医療の発展と社会の要請に応える日本小児科医会の各種事業の内容、成果、方向性を周知するとともに、医学・医療の最新知識ならびに技術を習得する場を企画し、小児の保健、医療、福祉の総合的な向上をはかる。

内容：テーマ「輝かそう未来を」

方法：一般演題（口演形式）、特別講演、教育講演、シンポジウム、特別企画

対象者：医師、初期研修医、医学生、コメディカル等

参加者数：1,017名

実施時期：2019年6月8日・9日

場所：京都テルサ（京都市）

財源：本部からの事業予算、参加費、企業展示および企業広告

（参加費）医師：15,000円（当日）、12,000円（事前登録）、

コメディカル：2,000円（当日のみ）、初期研修医・医学生：無料

委託先：京都小児科医会

共催：日本小児科医会、京都小児科医会

2) 事業名称：第15回日本小児科医会生涯研修セミナー（中止）

目的：小児科領域の総合診療能力の向上と、小児保健・福祉に寄与できる能力の習得を目的に、地域小児医療に従事する小児科医に研鑽の場を提供する。

内容：テーマ「スキルアップ！小児診療・小児の先端医療を学ぼう！」

方法：小児医療等に関する講演と質疑応答

対象者：会員、地域で小児医療にかかわる非会員の医師

事前登録者数：427名

実施時期：① 2019年10月13日（台風のため中止）、

② 2020年3月1日（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

場所：① ウィンクあいち（名古屋市）、② 名古屋市公会堂（名古屋市）

財源：本部からの事業予算、参加費

（参加費）会員：7,000円（事前登録）（内5,000円返金）

委託先：愛知県小児科医会

(3) 普及啓発及び支援事業

事業名称：日本小児科医会市民公開講座

共催：日本小児科医会、京都小児科医会
 方法：市民公開講座の開催
 内容：演題「京都鉄道博物館で発見！」
 演者：三浦英之氏（京都鉄道博物館館長）
 対象者：開催地の市民ならびに関係者
 実施時期：2019年（令和元年）6月9日
 実施場所：京都テルサ（京都市）
 財源：本部からの事業予算
 委託先：京都小児科医会

3. 子どもとメディア委員会

(3) 普及啓発及び支援事業

(1) 「子どもとメディア」問題に関する啓発活動

1) 子どもとメディア委員会の開催

ア) 全体会議；2回開催

回数	日程	会場
第1回	2019年6月23日、10:00~14:00	エイジーエス西新宿ビル202
第2回	2019年11月4日、10:30~14:00	エイジーエス西新宿ビル202

イ) 小委員会；開催無し

2) 会員向け啓発用資料の（スライド素材集）のリニューアル

会員専用ページ配信（ダウンロード可能）を目指し内容の検討を重ねたが、年度内に纏まらず、次年度に継続する事とし、今年度の配信を見送った。

3) リーフレット「スマホに子守りをさせないで」の増刷

納品日	増刷数	備考
2019/04/01	10,000部	
2019/04/02	10,000部	
2019/08/07	10,000部	
2019/09/03	10,000部	
2019/12/10	10,000部	2019年度事業計画では増刷4万部を予定していたが本年要望が多いため2万部の追加増刷を要望。11/20に会長承認を得る。
2020/02/04	10,000部	同上

4) 子どもとメディア問題啓発ポスター3種の増刷

納品日	スマホに子守りをさせないで	遊びは子どもの主食です	スマホの時間わたしは何を失うか
2019/04/02	1,000部	0部	0部

5) 子どもとメディアの問題に関する懇話会の開催

回数	日程	会場
第12回	2019年7月20日、15:00~17:00	エイジーエス西新宿ビル204
第13回	2019年11月30日、15:00~17:00	エイジーエス西新宿ビル202

6) 既存リーフレット、ポスターの啓発、配布

ア) 啓発活動

HPでの啓発。各種イベント会場における掲示、申込書の配布を行う。

イ) 配布

【リーフレット】※新入会会員や日本小児科医会事業関連で使用する以外は原則有料で頒布。

・会員	13,949 部
・非会員	35,600 部
計	49,549 部
残部	10,991 部

※トータルの発送件数；68 件

【ポスター】※無料配布。発送件数；77 件

	スマホに子守りをさせないで	遊びは子どもの主食です	スマホの時間わたしは何を失うか
・会員	160 部	159 部	155 部
・非会員	843 部	464 部	424 部
計	1003 部	623 部	579 部
残部	288 部	1,127 部	493 部

ウ)その他対応

	件数
取材・問合せ・講演依頼※1	3 件
引用掲載承認 ／紹介記事※2	11 件

※1； ミキハウス出産準備サイト編集室ライター、小学校教諭（鹿児島県肝属郡南大隅町佐多伊座敷）、名古屋女子大学健康科学部看護学科教授。

※2；美作大学/美作短期大学総務課、株式会社みくに出版編集部、HBC テレビ（北海道）、福岡市立照葉小中学校研修委員会（PTA）、岡山市立京山中学校図書館学校司書、株式会社浜島書店ライツ管理室、教育関係者・養護教諭（山梨県南都留郡道志村西和出村）、相模原市立星ヶ丘小学校、鎌倉市PTA連絡協議会会長、岐阜県環境生活政策課、尼崎市保健所健康増進課保健師。

4. 子どもの心対策委員会

（2）学術集会及び研修会事業

(1)「子どもの心」研修会の開催

1)子どもの心対策委員会の開催

2019年6月9日（日）、9：00～10：00 於京都テルサ第3会議室

2)子どもの心研修会準備WGの開催

第5回(通算)	2019年4月25日（木）14：30～16：00	グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター
---------	--------------------------	------------------------------

3)相談医認定審査会の開催（通算20回）

日程；2019年9月2日（日）13：00～15：00、会場；エイジーエス西新宿ビル202

4)第21回「子どもの心」研修会の開催

ア)受講者数

	日程	会場	受講者数／託児利用状況
前期	5月18日、19日	グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター	484名（会員464名、非会員20名） ／託児人数8名（シッター；①7名②8名）
後期	7月14日、15日	同上	483名（会員468名、非会員15名） ／託児人数9名（シッター7名）

イ)参加役員

	前期	後期
開会挨拶	神川晃会長（宿泊）。	神川晃会長（宿泊）。
役員	対策委員 6 名（内 2 名は受講者。非受講者 1 名宿泊）。業務執行理事（宿泊）。	対策員 5 名（内 3 名は受講者）。理事（宿泊）。業務執行理事（宿泊）。
WG メンバー	7 名（内 5 名は受講者）。	8 名（内 5 名は受講者）
要員派遣※	大阪小児科医会より 13 名（内 2 名は事務局職員）。	大阪小児科医会より 11 名（内 2 名は事務局職員）。

㌾未入会者への受講料差額請求

会員/非会員で受講料に差額を設けているが、入会予定として会員価格で受講後に期日までに入会頂けなかった先生には、後日受講料の差額分を請求した。

請求人数	請求後入会	差額入金者	未収金者
3 名	1 名	2 名	0 名

5) 相談医登録

本年度審査会により 2019/10/1 時点で相談医総数は 1257 名となる（2018/10/1 時点の相談医数は 1211 名）。

㌿新規登録

研修記録の条件を満たしている方	申請者	審査結果
65 名※1	124 名	122 名の新規登録を承認※2

※1) 内 24 名の研修記録は、本年の審査会をもって申請に対して無効となる。残りの 41 名の研修記録は次年度まで申請に対し有効である為、理事会後申請案内を発送予定。

※2) 専攻医研修中の申請者 2 名の登録を承認しなかった。

専攻医研修中申請者の対応について ※認定審査会より

今回登録を承認しなかった両先生については、再度申請の機会を与える為、今回申請頂いた受講記録を向こう 5 年間の申請に対し有効とする。

㌿更新登録

更新対象者	申請者数	審査結果; 188 名の登録更新を承認		
		正規更新承認	暫定更新承認	2020 年更新可能者
265 名	223 名	185 名	3 名※1	35 名※2

※1) 暫定更新者 3 名中、2 名は通常の暫定制度利用者。1 名は体調不良を理由に審査会にて更新の延長を承認。

※2) 更新要件一部免除者又は必須研修会 20 点を取得している未更新者。2019 年 9 月末で欠番（名簿から削除）とするが、更新申請期間の 1 年間延長を認め、次年度（2020 年 4 月～同年 8 月 5 日）までに申請があった場合は次回認定審査会にて登録更新とする。理事会後申請案内を発送予定。

㌿相談医研修単位承認申請への対応

申請件数；56 件、承認；56 件（内 5 件は台風又はコロナの為開催中止）※1、非承認；0 件

※1；特定非営利法人チャイルドファーストジャパン、広島県呉市小児科医会、一般社団法人日本子ども虐待医学会（JaMASCAN）、一般社団法人大阪小児科医会、日本外来小児科学会、共催：武田薬品工業株式会社/塩野義製薬株式会社、共催：広島発達障害研究会/塩野義製薬株式会社、京都小児科医会、日本小児科医会、一般社団法人日本保育保健協議会、宮城県・仙台市、栃木県、児童精神薬物治療研究会/塩野義製薬株式会社、一般社団法人日本子ども虐待防止学会、主催；厚生労働省/共催；日本小児科医会、NPO 法人子どもとメディア（主催）/日本小児科医会（共催）/日本医師会（共催）、石川県、一般社団法人日本小児神経学会、広島発達障害研究会/大塚製薬等。

(2) 思春期の臨床講習会の開催

㌿参加人数

日程；2019 年 11 月 10 日、会場；KFC ホール、受講者；182 名（会員 173 名、非会員 9 名）、運営委員 3 名（内 1 名宿泊）。※開会挨拶は神川晃会長。

㌾未入会者への受講料差額請求

会員/非会員で受講料に差額を設けているが、入会予定として会員価格で受講後に期日までに入会頂けなかった先生には、後日受講料の差額分を請求した。

請求人数	請求後入会	差額入金者	未収金者
2名	0名	1名	1名

(3)「子どもの心」相談医カウンセリング実習

各地カウンセリング実習の開催

	日程	会場/講師/ファシリテータ	世話人	受講者/役員
岡山	7月28日	岡山大学病院総合診療棟西棟5階第13カンファレンスルーム/講師1名/ファシリテータ3名	岡田あゆみ	20名(相談医17名、会員3名)/運営委員1名(同世話人)。
仙台(1)	10月13日	仙台市医師会館5階研修室/講師1名/ファシリテータ2名	今公弥	台風の為2020/2/16に延期開催。
函館	12月15日	函館中央病院8階講堂/講師3名/ファシリテータ1名	渋谷好孝	9名(全て相談医)/運営委員1名(同世話人)、その他委員1名、業務執行理事(宿泊)。
東京	1月19日	エイジーエス西新宿ビル204/講師2名/ファシリテータ無	内海裕美	18名(相談医16名、会員2名)/担当理事(兼講師)、業務執行理事(兼講師)。
周南	1月19日	鼓ヶ浦こども医療福祉センター/講師1名/ファシリテータ4名	伊住浩史	24名(相談医22名、会員1名、非会員1名)/運営委員1名(同世話人)。
仙台(2)	2月16日	仙台市医師会館5階研修室/講師1名/ファシリテータ2名	今公弥	17名(相談医16名、会員1名)/運営委員1名(同世話人)。 ※延期により受講が叶わなかった5名の先生には受講料の一部を返金。
金沢	2月16日	しいのき迎賓館セミナールームB/講師1名/ファシリテータ無	藤澤裕子	23名(相談医21名、会員2名)/運営委員1名(同世話人)、業務執行理事(宿泊)。
大阪	2月16日	アットビジネスセンター大阪梅田906号室/講師1名/ファシリテータ無	野間大路	37名(全て相談医)/運営委員1名(同世話人)
広島	2月16日	広島YMCA国際文化センター本館407号室/講師1名/ファシリテータ5名(内1名世話人兼任)	河野政樹	16名(相談医15名、会員1名)/運営委員1名(同世話人※ファシリテータ兼任)
名古屋	3月1日	ウインクあいち1305会議室/講師1名/ファシリテータ無	蜂谷明子	コロナの為中止。 ※お申込者17名に受講料の一部を返金。 ※講師の先生に執筆料として1万円をお支払い。

(4)「子どもの心の診療医」研修会の共催

母子保健指導者養成研修会事業の一環である「子どもの心の診療医」研修会を共催した。コーディネータ派遣依頼を受け内海業務執行理事が参画。プログラム・講師などの検討を行い、研修会に出席した。

日程；2019年12月22日、会場；飯田橋レイホービル7階大会議室、参加者数；162名

(5)「子どもの心」研修会（導入編）の開催

日程；2019年10月4日、会場；KFCホール、受講者；139名（111名、非会員28名）、運営委員3名（内1名宿泊）、その他委員2名、業務執行理事（兼講師）。※開会挨拶は伊藤隆一副会長。

3. 普及啓発及び支援事業

(1)子どもの心の問題・対応・解決のための活動

1)冊子「子どもの心のケアのために」の啓発、配布

ア)啓発活動

主催研修会会場を中心に冊子を広報するチラシを配布した。

イ)配布

	日本語版	英語版	中国語版	備考
配布	403部※1	10部※1	10部※1	
残部	5748部	—※2	—※2	

※1；ぶっとく保育園、NPO法人犯罪被害当事者ネットワーク緒あくす事務局、熊本赤十字病院小児科等。

※2；英語版、中国語版はデータ作成のみ。必要時に印刷。

5. 国際委員会

(1) 調査研究事業

1) 在日外国人の子どものたちの医療環境に関する調査

日本小児科医会会員に対して、地域における在留外国人小児患者への対応に関する Web アンケート調査を実施しました。結果は 2020 年 6 月開催の日本小児科医会総会フォーラム国際委員会企画シンポジウムで発表予定であったが中止となったため、日本小児科医会ニュースおよび日本小児科医会ホームページ上で報告する予定です。

アンケート調査へのご協力をお願い
地域における在留外国人小児患者への対応に関するアンケート調査

日本小児科医会 国際委員会

わが国において小児科医療のグローバル化が注目されてから年余が経過しました。すでに多くの診療経験を有しておられる診療所や病院も少なくない状況です。近年、対応経験を有する医療機関からは、その対応についての課題や対応策に関する報告も散見されています。

一方、診療を受ける外国人の状況には、親の就労などで日本に在留している場合に加え、政府が目指す訪日外国人旅行者 4,000 万人の実現に向けてのインバウンド事業推進を背景に、これからは旅行で滞在する場合も増加する可能性も高くなることが見込まれます。しかしながら、主に母国語を話す外国人の国籍や在留の状況は、地域により異なっており、医療通訳サービスなど円滑な診療を支える体制も、都市部と地方とで異なっていると考えられます。

そこで今回の調査では、小児科診療における在留外国人小児患者への対応について、地域の特性も踏まえて検討させていただきます。なお、本調査において「在留外国人小児患者」とは、主に母国語を話す外国人の親を持つ子どもを指し、就労などで日本に在留している場合だけでなく、旅行で滞在している場合も含めることとします。調査結果は、第 31 回日本小児科医会 総会フォーラム in 札幌で報告させていただきます予定です。

【目的】

わが国の小児科診療における在留外国人小児患者における課題と対策を把握すること。

【対象】

日本小児科医会会員

【調査期間】

2019 年 12 月 10 日～2020 年 3 月 7 日

【回答方法】

日本小児科医会の会員サイトからご回答ください。

* PC ページ

http://www.jpeda.or.jp/cgi/web/index.cgi?c=mem_enquete-form&pk=9

* スマートフォンページ

http://www.jpeda.or.jp/cgi/sp/index.cgi?c=mem_enquete-form&pk=9



※12 月 11 に先生のメッセージ宛（マイページ内）に上記 URL を配信させて頂いております。

PC でご回答頂く場合はマイページから上記 URL にアクセス下さい。

（日本小児科医会 HP トップページ＞会員専用ページ＞マイページ＞メッセージの順にお進みください。）

〔注〕12 月 10 日に配信したメッセージに一部リンク不良がございました。再送信メッセージからご回答下さい。

※メールアドレスを登録頂いている先生には登録先のメールアドレスにも同ご案内を致しております。

（2）学術集会及び研修会事業

1) 日台小児医療シンポジウム

2019 年 11 月 22 日～24 日、台湾を訪問し、23 日に台北市で台湾小児科医会との小児医療情報交換会、24 日に高雄市で日台小児医療シンポジウム（台湾小児科医会主催、日本小児科医会共催）へ参加しました。日本小児科医会会員 8 名が参加し、田原副会長が「成育基本法」についてプレゼン

テーションを行い、シンポジウムへは3つの演題を出しました。

Japan-Taiwan Pediatric Symposium 2019			
Organizer: Taiwan Pediatric Association			
Date: 23 November 2019 (Sat) 14:00~18:00			
Place: 15F Meeting Hall, Grand Hi-Lai Hotel (No. 266, Cheng-gong 1st Road, Kaohsiung City 801, Taiwan)			
Time	Topics	Speaker	Moderator
14:00~14:30	Registration		
14:30~14:40	Opening	Chairman Tsong-Hong Lai (Kaohsiung Medical Association)/ Vice Chairman Wu-Yuen Chen (Taiwan Pediatric Association)	
14:40~15:10	Can gastric lesions be evaluated in the clinic?	Takahito Takeuchi	Shizuo Shirado
15:10~15:40	Laboratory findings relating the course of asthma from the 1st to 6th grades of elementary school in epidemiological study	Hiroshi Odajima	Jun Morita
15:40~16:10	Pathological internet use and risky behaviors among elementary school children: Toyama Safety Internet Use Workshop	Masaaki Yamada	Yoshihiro Sekiba
16:10~16:20	Coffee break		
16:20~17:00	Prevention and management of milk protein allergy	Hong-Chang Lee	Ling Wang
17:00~17:40	MicroRNA in the treatment of pediatric myopia	Sub-Hang Hank Joo	Ikkyu Wang
17:40~18:00	Discussion	Jing-Yang Lau (Alison Hospital, Taipei)	
18:00~20:00	Banquet (9F)		

-1-

2) 第5回予防接種・海外渡航合同研修会

2019年11月10日(日)、公衆衛生委員会と共催で東京都医師会館で実施しました。

(3) 普及啓発及び支援事業

1) インターネットによる情報提供

2019年4月1日~2020年3月31日、海外およびこれから海外へ出かけて行く家族から17件の相談を受けました。予防接種、アレルギー疾患に関する相談が主なものでした。予防接種に関する相談は、日本と諸外国との間での予防接種間隔の違い、使用しているワクチンの違いなどに関する相談が目立ちました。

2) ヤンゴン 日本人学校健康相談

2019年9月12日~16日実施。参加者は、田原卓浩(副会長、国際委員会担当)、関場慶博(国際委員会業務執行理事)、進藤静生(国際委員会委員)、岡田純一(日本小児科医会会員)

活動内容

9月12日

[ヤンゴン日本人学校での学童健康相談]

8名の学童の健康相談を実施いたしました。今回は、医師を2グループに分けて、各相談に十分な時間をとることにいたしました。お一人30~60分の相談となりましたが、フィードバックによれば好評でした。

9月13-14日

[アウン僧院付属小中学校学童健診]

総勢1,100名でしたので、2日に分けて実施いたしました。先天性心疾患および頭部白癬菌、疥癬などの皮膚疾患が目立ちました。むし歯を複数持った学童が予想以上に多いことがわかりました。

[学研ミャンマースクール学童健診]

比較的裕福な家庭の子が通う現地の塾での学童健診(50名)も実施いたしました。

- ・アウン僧院付属小中学校は、孤児や貧しい家庭の子どもが寄宿舎生活をしていて、予防接種はほとんど実施されていませんでした。一方、学研ミャンマースクールの子どもたちは全ての予防接種を受けており、病的な子どもはおりませんでした。
- ・3年目になるヤンゴン日本人学校学童健康相談でしたが、認知度も高まり学校側も私たちの訪問を期待・歓迎してくれました。「日本人の小児科医と直接face to faceでじっくり相談できることはありがたいです」というお声をほとんどのご父兄からいただきました。
- ・現地で開業されているミャンマー人の医師、Dr. Htay Lwinにも参加してもらい、現地での医療情報をいただけたこともご父兄には好評でした。
- ・海外邦人医療基金(JOMF)は、ミャンマー日本人会の学童(希望者)を対象に年一回の健康相談会を実施していましたが、来年度からは無くなるとのことで、私たちの医療相談により一層の期待がございました。
- ・また、国際委員会オンライン医療相談については認知度が低く、学校側へ全校レベルで周知していただくことをお願いしてきました。
- ・理事会でご承認いただいたビデオ相談(ヤンゴン日本人学校児童健康相談を映像を使って実施する)について、ご父兄および学校側へその内容(オンライン医療相談で不十分なケースにつきましてはビデオ相談を行える用意がある)を提案いたしました。説明のための時間が十分に取れず、今後の課題となりました。
- ・むし歯が予想以上に多く、歯科健診の必要性を感じました。
- ・ミャンマー小児科医会との意見交換会は、ミャンマー側の都合がつかず実施できませんでした。

3) ベトナム新生児・小児循環器医療支援

今年度は実施できませんでした。

4) モンゴル小児循環器診療支援

今回のモンゴル地方都市検診は、首都ウランバートルから西南西640kmのバヤンホンゴル市で行なった。

バヤンホンゴル検診班の人員構成は、愛媛県立中央病院小児科部長の山本英一を班長に、四国おとなとこどもの病院(香川)の小児循環器科寺田一也、高槻病院小児科内山敬達の小児循環器医師3名に、愛媛大学医学部5回生と金沢大学医学部5回生各1名の5名が日本から渡航したメンバーで、モンゴル国立母子センター小児循環器科の医師1名、現地NPO法人ハートセービングプロジェクトモンゴリア(HSPモンゴリア)のスタッフ3名が加わった総勢9名であった。

岡山発着便で同じ時に渡航した羽根田紀幸は、バヤンホンゴルには行かずに、成田から直行便で渡航した医師3名と合流し、ウランバートル市の国立モンゴル母子センター小児循環器科での検診と同科医師達とのカンファレンスに終始した。

渡航メンバーは、4月28日朝に岡山空港と福岡空港から日本を立ち、韓国仁川空港で合流した後、現地時間17時(日本時間18時)にウランバートル・チンギスハーン空港に到着した。ハートセービングプロジェクトモンゴリア(HSPモンゴリア)と空港で打ち合わせした後、18時にバヤンホ

ンゴル県へ向け、当日は途中 430km 離れたアルワイヘル市で宿泊することとして、マイクロバスで出発した。アルワイヘル市到着は、砂嵐と道路の整備状態が不良のため予定より 3 時間遅れた夜中の 3 時となった。ここでタイムホテルに宿泊した。

翌朝 8 時半にホテルを出発し、210 km 先のバヤンホンゴル県立病院に 11 時半に到着した。院長や病院関係者への挨拶、昼食後、14 時から検診を開始した。

検診初日の 4 月 29 日は 105 名の受診者が来院し、日本から持参したポータブル心エコー 2 台と病院所有の大人用心エコー 1 台の 3 台を用いて検診を行った。終了後は現地スタッフと会食交流した。

2 日目は 19 名に心エコー検診を行い、2 日間での総受診者は 124 名であった。午前中で検診が終わり、昼食の後 14 時にバヤンホンゴル市を出発した。330km 移動、19 時にウランバートルまでの残距離 310km のハラホリン市に到着し、ここでゲルキャンプに宿泊した。

翌 5 月 1 日は朝 7 時にゲルキャンプを出発、午前中近くの古都旧跡を観光、昼食後ハラホリン発、ウランバートル市に 19 時に帰着した。ウランバートル・チンギスハーン空港近くのレストランで羽根田らと合流し、食事をしながら 2 時間カンファレンスを行った。その後空港に向かい、帰国便に搭乗した。帰国便は 23:15 (日本時間 5 月 2 日 0:15) 発の仁川行きで、3:25 仁川空港仁川空港着。仁川空港着ラウンジで仮眠の後、朝仁川空港発の便で、メンバーそれぞれが最寄りの岡山空港、福岡空港、関西空港に帰国した。

今までの地方検診では現地に小児循環器医師はいなかったが、今回訪れたバヤンホンゴル県立病院には母子センター小児循環器科での研修歴を有する成人循環器医師が 1 名いて、成人仕様ではあるが心エコー装置も 1 台装備されていた。母子センター小児循環器科医師達との連携もよく、心疾患患児の管理は他地域と比してかなりきちっと行われていると判断できた。今後モンゴルで小児循環器領域に関心を持つ医師が増えるにつれて、他の地域にも同じような医師が派遣されることへの期待を抱かせる検診であった。モンゴルの地方都市の中では先進的と考えられるバヤンホンゴルではあったが、それでも Eisenmenger 化した心室中隔欠損が 2 名いた。モンゴル全体では、まだまだ手遅れ状態で診断される心疾患が多数いると考えられるので、いましばらくはこのプロジェクトを続ける必要ありと思っている。

・バヤンホンゴル検診結果の概略

受診総数 124 名

主な内訳

- 心房中隔欠損 6 名 → 5 名 カテーテル治療検討
→ 1 名 バヤンホンゴル県立病院で経過観察
- 心房中隔欠損+肺動脈弁狭窄 1 名
→ 同時にカテーテル治療検討
- 動脈管開存術後 6 名 → バヤンホンゴル県立病院で経過観察
- 動脈管開存 5 名 → 3 名 軽症、バヤンホンゴル県立病院で経過観察
2 名 カテーテル治療対象
- 肺動脈弁狭窄 4 名 → 3 名 軽症、バヤンホンゴル県立病院で経過観察
1 名 カテーテル治療対象
- 心室中隔欠損 28 名 → 20 名 軽症、バヤンホンゴル県立病院で経過観察
6 名 外科手術必要、外国から渡航の心臓外科チーム紹介
2 名 重症、Eisenmenger の可能性大
- 心室中隔欠損術後 3 名 → バヤンホンゴル県立病院で経過観察
- ファロー四徴 3 名 → 外国から渡航の心臓外科チーム紹介

ファロー四徴術後 1名→ バヤンホンゴル県立病院で経過観察

以下、モンゴルの現状では治療困難な症例

動脈管開存+心房中隔欠損+心室中隔欠損 1名

三尖弁閉鎖 PA banding 後 1名

ファロー+肺動脈閉鎖+動脈管開存 1名

僧帽弁逆流 4名

大動脈弁逆流 3名

原発性肺高血圧 1名（バイアグラ内服中だが、価格と供給の両面から継続困難）

以上、バヤンホンゴル検診のまとめ

比較的急ぐため、今年8月のHSPカテーテル治療班紹介 5名

母子センターで活動している外国から渡航の心臓外科チーム紹介 12名

今回初めて受診 42名

心疾患なし 52名

国立母子センター小児循環器科での検診結果の概略

受診総数 101名

主な内訳

HSPカテ班で今年中のカテーテル治療対象 17例

動脈管開存 11例

心房中隔欠損 2例

肺動脈弁狭窄 1例

大動脈縮窄ステント留置後でステントのバルン拡張必要 2例

重症大動脈縮窄で可及的速やかなステント留置が必要 1例

治療法選択のためHSPで診断カテーテルが必要とした冠動脈瘻 1例

経食道心エコーでカテーテル閉鎖は無理と判断した心房中隔欠損 1例

HSPでいずれカテーテル治療 14例

動脈管開存 11例

心房中隔欠損 2例

肺動脈弁狭窄 1例

軽症につき母子センターで経過観察

動脈管開存 3例

心房中隔欠損 2例

肺動脈弁狭窄 3例

心室中隔欠損 3例

外科手術必要で外国から渡航の外科チーム紹介

心室中隔欠損 3名

ファロー四徴 1名

重症で現段階ではモンゴルでの治療も外国への搬送も困難

ファロー+肺動脈閉鎖+ closing 動脈管開存 1名

総肺静脈還流異常 1例

拡張型心筋症 1例

6. 小児救急医療委員会

(1) 調査研究事業

1) 小児救急医療委員会開催

小児救急医療委員会事業の事業計画作成、事業遂行、事業進捗状況をチェックした。

①第1回委員会 2019年6月8日(土) 京都テルサ、10名出席

②第2回委員会 2019年9月22日(日) 全国町村会館、11名出席

③第3回委員会 2020年1月19日(日) 東京八重洲ホール、12名出席

④第9回地域小児救急全国協議会

開催日：2019年6月9日(日)

場所：京都テルサ

参加人数：各都道府県小児科医会の小児救急委員、日本小児科医会小児救急医療委員など計52名。

小児救急アンケート調査の報告と協議、小児救急医療委員会活動の報告、#8000情報収集分析事業の報告を行い、小児救急に関する各県の課題を話し合った。

⑤2019年度(令和元年度)小児救急連絡協議会への参加。

2019年10月14日(月・祝)(於：東京・日本小児科学会会議室)

参加団体：日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児救急医学会、日本小児外科学会、日本救急医学会、日本医師会、日本集中治療医学会、日本臨床救急医学会、厚生労働省
#8000情報収集分析事業の報告、CPT連携について述べた。

2) 小児救急アンケート調査

目的：都道府県の小児救急医療の現状分析と課題の検討。

内容：47都道府県小児科医会に対して、初期小児救急医療の調査を行った。

実施時期：2019年4～5月。

46都道府県から回答があった。

3) #8000全国情報支援センター協議会

2019年度は開催には至らなかった。

4) #8000情報収集分析事業

①全国の#8000事業から得られる情報を収集して分析し、保護者の啓発に活用し、相談員の質の向上をはかるため、2019年度の厚生労働省医政局の#8000情報収集分析事業に応募して、選定を受けた。

2019年12月から2020年2月の3ヶ月間に39都道府県対象でデータ収集を行い、報告書を作成、提出した。

②#8000都道府県担当者会議

開催日：2019年10月2日(水)

場所：フクラシア東京ステーション

参加者：19都府県の#8000担当者

#8000情報収集分析事業について説明し、意見交換した。

③#8000WG会議、打ち合わせ(Web会議含む)。計15回(2019.08.12、09.16、09.20、11.04、11.22、11.29、12.20、2020.01.19、01.24、02.16、02.19、03.22、03.28、03.29、03.30)。

④#8000厚生労働省との会議。計5回(2019.08.23、11.28、12.24、2020.01.24、02.19)。

(2) 学術集会および研修会事業

1) シンポジウム開催

#8000事業について会員に普及し、小児かかりつけ医制度を推進するために、第30回日本小児科医会総会フォーラム(京都)においてシンポジウムを開催した。

テーマ：「#8000 情報収集分析事業からみえてくること」

開催日：2019年6月9日（日）

場所：京都テルサ大会議室

講師：吉澤穰治、福井聖子、小山典久、渡部誠一。

2017年度#8000 情報収集分析事業報告（5 道県、1 ヶ月）と 2018 年度 8000 情報収集分析事業（25 都道府県、3 ヶ月間）の中間報告を行った。

2) 第5回小児救急研修会

開催日：2019年9月22日（日）

目的：会員の小児救急医療レベルの向上、今後の小児救急の課題を話し合う

場所：全国町村会館（東京都千代田区）

財源：受講費（参加費）会員 10000 円、非会員 15000 円、小児救急医療委員会研修会事業費

参加者数：64 名

プログラム：

1) 家庭看護力醸成

北九州市立八幡病院 西山和孝

2) 小児救急の身体診察

東京都立小児総合医療センター 伊原崇晃

3) 子ども虐待への小児科医の役割を考える

白百合女子大学 宮本信也

4) #8000 情報収集分析事業を日常診療に生かす

日本小児科医会理事 渡部誠一

5) 災害時の小児医療

・3.11 東日本大震災を振り返る

宮城県小児科医会 永井幸夫

・3.11 東日本大震災と原発事故

福島県小児科医会 竹内真弓

・災害医療研修会について

NHO 災害医療センター 岬 実穂

(3) 普及啓発及び支援事業

1) 第5回家庭看護力醸成セミナー

開催日：2019年10月27日（日）

目的：一般市民、子どもの医療人等に対して、家庭看護力醸成を啓発する。

テーマ：「育てよう！身に着けよう！子どもを見る力を！」

対象者：医師、看護師、保育士、幼稚園教諭、保護者、一般市民

参加者数：62 名

実施場所：三重県医師会館大ホール

・基調講演

1) 「いつもと違う」が家庭看護力の基本！

北九州市立八幡病院 西山和孝

2) 家族に寄り添う小児救急医療と家庭看護力醸成

日本小児科医会理事 渡部誠一

・シンポジウム「あっ！危ない!!—家庭での気づき—」

1) 家庭での子どもの事故

三重県耳鼻咽喉科 坂井田麻祐子

2) 食物アレルギーを起こしたときの家庭での対応

国立病院機構三重病院 藤澤隆夫

3) 家庭支援と子ども支援

元三重児童相談センター 鈴木 聡

・総合討論

2) 家庭看護力醸成マニュアル作成

2013年の第24回総会フォーラム（大阪）の日本小児科医会地域小児救急全国協議会において、家庭看護力醸成を今後の主たる活動目標とすることを決定した。家庭看護力醸成は故市川光太郎委員の長年の小児救急医療への造詣と熱意から作られたもので、救急受診の目安とチェックポイント、家庭看護力醸成の3つの柱からなる。小児救急医療委員会は、2015年から家庭看護力醸成セミナーを毎年開催してきた。今まで、茨城、兵庫、岡山、山形、三重で開催した今までの成果をひとつにまとめて、都道府県小児科医会・小児科医会会員に今後の活動の道筋を付けるべく、家庭看護力醸成マニュアルを作成するために小児救急医療委員と過去5回の主催県（茨城・兵庫・岡山・山形、三重）のスタッフでWGを組織して、家庭看護力醸成セミナー特集編集会議を行った。

家庭看護力醸成WG委員10名、うち5名をコアメンバー5名として、過去5回の家庭看護力醸成セミナーの資料の収集と整理、家庭看護力醸成マニュアル作成に向け話し合った。

家庭看護力醸成コアメンバー会議（2019.11.17、12.15）

家庭看護力醸成WG（web会議含む）（2020.01.19、03.20）

7. 公衆衛生委員会

(1) 調査研究事業

1) 全国広域化予防接種実施の進捗状況と問題点

居住地外での予防接種に対する情勢状況の調査

アンケート調査を実施

結果を第30回総会フォーラム時にポスター講演にて発表

2) 予防接種推進専門協議会へ委員を派遣

3) 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会に委員を派遣

4) 公衆衛生委員会開催（3回）

第1回委員会 2019年6月8日（土） 第30回日本小児科医会総会フォーラム開催時（京都）

第2回委員会 2019年9月22日（日） エイジーエス西新宿ビル（東京）

第3回委員会 2020年1月19日（日） エイジーエス西新宿ビル（東京）

(2) 学術集会および研修会事業

1) シンポジウム開催（第30回日本小児科医会総会フォーラム（京都）にて）

開催日：2019年6月9日（日）

場所：京都テルサ

テーマ：「保育所・こども園・幼稚園における感染症対策」

2) 第5回予防接種・海外渡航合同研修会

開催日：2019年11月10日（日）

場所：東京都医師会館2階講堂

テーマ：「予防接種：諸外国と日本の違いから身近な問題と対応」

参加者数：147名

(3) 普及啓発及び支援事業

- 1) 厚生労働科学研究「HTLV-1」母子感染予防に関する研究
班会議に出席
- 2) 子宮頸がん制圧をめざす専門家会議に出席
- 3) “風しんゼロ”プロジェクトに協力
アピールイベントへの協力 2020年2月4日(火)
- 4) ワクチン供給体制について 自見はなこ議員の調査に協力

8. 社会保険委員会

(1) 調査研究事業

1. 小児科診療報酬の研究調査

1) 小児科診療報酬体系の問題点と今後のあり方の研究

①診療報酬改定への取り組み

次回改定に対する要望書作成、小児給付率の引き上げの検討、小児科医師の技術評価の検討、将来の小児診療に最適な診療報酬制度の検討、地域連携を含めた救急医療への参画及びその評価の検討、小児在宅医療評価の検討、病院小児科の診療報酬の調査・考察・疑義解釈事項の検討、医療費助成地域格差の検討、「小児かかりつけ診療料」見直し、診療情報提供料(1)の提供先の拡大。将来の小児医療・保健を考慮した診療報酬の在り方について検討。

②関連委員会への参加と委員会及び研修会の開催

全国社会保険委員会の開催、日本小児科学会社会保険委員会との意見交換、日本小児科学会社会保険委員会との合同社会保険小委員会の開催、日本医師会社会保険診療報酬検討委員会への参加と意見交換、内科系学会社会保険連合(内保連)への参加と意見交換

③診療所医療経営状況の調査

- ・各都道府県小児科医会会長へのアンケート調査(診療報酬改定へ向けての要望把握)
- ・診療所小児科医業経営実態調査アンケート実施

特に、小児かかりつけ診療料の算定基準・施設基準等の変更・緩和を要望する根拠を把握

2. 社会保険委員会開催

1) 第1回日本小児科医会社会保険委員会

2019年(令和元年)6月9日(日) 京都テルサ第4会議室

① 新任委員紹介

② 日本小児科医会理事会報告

③ 日本医師会報告

④ 医療技術(再)評価提案書について

小児かかりつけ診療料および診療情報提供書(I)の2項目について提出

⑤ 次回診療報酬改定に向けた小児医療に関する要望書について

総論・外来医療・入院医療・在宅医療・DPCごとにまとめたものに小児関連の学会の要望項目を加え、内保連・日本医師会・厚生労働省に提出

⑥ 令和元年度診療所小児科医業経営実態アンケート調査について

⑦ 令和2年度日本小児科医会総会フォーラム(札幌)でのシンポジウムについて

テーマ「これからの小児医療・保険を考えた診療報酬の在り方について」

小児外来部門、入院部門、在宅部門に分けてシンポジウム形式で行う。パネリストは外来部門(森伸生委員)、入院部門(中林洋介委員)、在宅部門(大山昇一理事)。

⑧今後のスケジュール

- 令和元年 9 月 15 日（日）11：00～15：00 社会保険小委員会
令和元年 11 月 10 日（日）11：00～15：00 第 2 回社会保険委員会
令和 2 年 2 月 23 日（日）13：00～16：00 社会保険全国委員会

2) 社会保険小委員会

- 令和元年 9 月 15 日（日）エイジーエス西新宿ビル
令和元年度診療所小児科医業経営実態アンケート調査について審議した

3) 第 2 回日本小児科医会社会保険委員会

令和元年 11 月 10 日（日）エイジーエス西新宿ビル 204 会議室

- ① 日本小児科医会理事会報告
② 日本医師会報告

小児科関連の次回診療報酬改定では改定率がマイナスとなる可能性がある。令和元年度診療報酬改定のスケジュールについて。今回改定の検証結果および主な施設基準の届け出状況等について（中医協資料）。

③ 厚生労働省ヒアリングについて

7 月 31 日に厚生労働省ヒアリングが開催され 4 名参加。

④ 第 8 次医療計画に向けた指標の見直しと、子どものための地域共生社会のモデルについて

⑤ 令和元年度診療所小児科の医業経営実態調査（中間報告）について

今回から調査対象を A 会員全員とした。回収率は 20.6%と前回とほぼ変わりがなかった。12 月 8 日の理事会までに最終集計をまとめ、2 月 23 日（日）の全国委員会までには最終報告書を作成

⑥ 令和 2 年度日本小児科医会総会フォーラム（札幌）のシンポジウムについて

日時：令和 2 年 6 月 6 日（土）15：10～

テーマ：「これからの小児医療・保険を考えた診療報酬のあり方について」

座長は奥村秀定副会長、高木英行委員長、パネリストは森伸生委員（外来部門）、中林洋介委員（入院部門）、大山昇一理事（在宅医療部門）の 3 名に決定した。

⑦ 令和元年度社会保険全国委員会について

日時：令和 2 年 2 月 23 日（日）13：00～16：00

会場：エイジーエス西新宿ビル 2 階会議室

特別講演：日本医師会社会保険担当 松本 吉郎 常任理事

4) 2020 年（令和 2 年）2 月 23 日（日）13：00～16：00 社会保険全国委員会

新型コロナウイルス感染症拡大のため会議中止となった。

予定された議事内容

① 特別講演 日本医師会社会保険担当常任理事 松本吉郎

「次期診療報酬改定に向けて」

② 関連委員会・会議等報告

③ 令和元年度診療所小児科医業経営実態調査報告

④ 令和 2 年度診療報酬改定について

外来診療において、特記すべき点として、小児科外来診療料および小児科かかりつけ診療料の算定対象が 3 歳未満から 6 歳未満に拡大。小児抗菌薬適正使用加算が月 1 回まで 6 歳未満まで認める。包括されない点数に「診療情報提供料Ⅲ」（新設）が追加された。

⑤ 次回社会保険委員会の予定

⑥ 第 31 回日本小児科医会総会フォーラム in 札幌での社会保険委員会企画シンポジウム

9. 少子化対策子育て支援委員会

(1) 調査研究事業

1) 成育基本法推進特別委員会 (2回)

第1回・6月9日(日)、第2回・9月8日(日)

各都道府県小児科医会に「成育医療等協議会」への要望事項を求め、意見交換を行い、日本小児科医会からの最終案をとりまとめた。

2) 記者懇談会 (3回) 日本プレスセンタービル(東京都千代田区内幸町)

第5回・2019年4月3日(水)

テーマ「グローバル化する社会での感染症のリスクとワクチン」

第6回・8月7日(水)

テーマ「成育基本法の推進に向けて」

第7回・12月4日(水)

テーマ「子どもの感染症、正しく知り、正しくおそれる」

(2) 普及啓発及び支援事業

1) 成育基本法推進全国大会

日時：2019年9月7日(土) 17時から

場所：帝国ホテル東京光の間

講演：「成育基本法の成立と関連する諸施策について」

演者：自見はなこ参議院議員

2) 健やか親子21事業(第2次)

健やか親子21(第2次)推進協議会テーマグループ2育児支援で取り組みを続けてきた。今年度の活動は出前講座研修会への講師派遣リストにつき、問い合わせフォームのテストページが完成した。この運用については、令和2年度以降の推進協議会において議論していただく。

・令和元年度「健やか親子21(第2次)」

第1回テーマグループ2ミーティング

2019年7月31日(水) 13:00~14:45

小学館集英社プロダクション 昭和ビル7F大会議室

・令和元年度「健やか親子21全国大会」

2019年11月7日・8日(木・金)

千葉市民会館

3) 関係諸団体との連携

①日本小児医療保健協議会(6回)

第190回(5月15日)、第191回(7月17日)、第192回(9月18日)、

第193回(11月20日)、第194回(2020年1月15日)、第195回(3月・メール審議)

各会の活動内容を報告し、各合同委員会の活動、予防接種、専門医制度や厚生労働省など行政への要望書等協議。次年度は日本小児期外科系関連学会協議会が幹事。

②日本小児医療保健協議会合同委員会

i) 成育基本法検討委員会(3回)

第1回・5月15日(水)、第2回・9月18日(水)、第3回・11月20日(水)

成育医療等協議会へ提出する要望事項のとりまとめ

ii) 小児科と小児歯科の保健検討委員会(3回)

第79回・6月13日(木)、第80回・10月10日(木)、第81回・2020年1月16日(木)、
「食に関連する子どもの窒息事故」についての検討を行った。

iii) 健康診査委員会 (2回)

第22回・4月20日(土)、第23回・2020年2月8日(土)
乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 PartIV開催報告。
アンケートを基に研修会について検証した。

iv) 栄養委員会 (2回)

第14回・4月21日(日)、第15回・11月1日(金)
2020年1月25日(土)「第14回子どもの食育を考えるフォーラム～子どもたちの健康を守るために知っておきたい!『ヘルスリテラシーと食育』～」を開催した。

v) 発達障害への対応委員会 (3回)

第24回・5月10日(金)、25回・9月12日(木)、26回・2020年2月7日(金)
各学会や各団体が発達障害に関して設けている資格や制度に関する意見交換を行った。

vi) 重症心身障害児(者)・在宅医療委員会 (2回)

第20回・4月19日(金)、第21回・2020年2月2日(日)
1) 在宅医療講習会マニュアル 2) 地域における医療的ケア体制:学校 3) 地域における医療的ケア体制:就学前 4) 養育能力の低い家族についての小児科医の理解促進 5) 重症心身障害児(者)・医療的ケア児(者)における小児科医の役割 などについて各グループに分かれてお互いに報告を行った。

vii) 子どもとICT、子どもたちの健やかな成長を願って委員会 (3回)

第1回・5月26日(日)、第2回・9月23日(月・祝)、第3回・2020年1月10日(金)
2020年度の小児保健学術集会や2020年度の市民向け講演会などの内容について話し合った。

viii) 小児・周産期災害医療対策委員会 (2回)

第10回・4月5日(金)、第11回・12月23日(月・祝)
参加各団体からの報告、情報共有を行った。

③関連団体会議

i) 日本臨床分科医会代表者会議

第22回・9月5日(木)

ii) 日本医師会母子保健検討委員会 (2回)

第5回・8月1日(木)、第6回・10月11日(金)

令和元年度母子保健講習会開催・2020年2月16日(日)

シンポジウム「健やか親子21」

④公開フォーラムの開催

第10回子どもとメディア全国フォーラム「スマホ社会と子どもの未来」開催報告

日時:2020年1月26日(日)10:00~17:00

メイン会場:日本医師会館大講堂(東京)

WEB中継会場:みんなの貸会議室天神西通り北店(福岡)

主催:NPO法人子どもとメディア

共催:公益社団法人日本医師会 公益社団法人日本小児科医会

後援:朝日新聞社 西日本新聞社 毎日新聞社 読売新聞社

【プログラム】

基調講演 スマホが児童・生徒の脳発達を阻害する

川島隆太（東北大学教授・脳科学）

基調報告 WHO「ゲーム障害」認定までの経過とこれからの課題

樋口 進（国立病院機構久里浜医療センター院長）

特別講演 人間はいきものであるという原点 ～生命誌とスマホ社会～

中村桂子（生命誌研究者・理学博士）

シンポジウム スマホ社会とこどもの未来 ～技術革新は人類を幸せにするのか？～

基調提案

- ・こどもの“からだと心”のいま

野井真吾（こどものからだと心連絡会議議長、日本体育大学教授）

- ・子どもたちの目を守る～スマホではなく外遊びを～

富田 香（平和眼科院長、杏林大学講師・小児眼科額）

討論

中村桂子（生命誌研究者・理学博士）

野井真吾（こどものからだと心連絡会議議長、日本体育大学教授）

富田 香（平和眼科院長、杏林大学講師・小児眼科額）

道永麻里（日本医師会常任理事）

コーディネーター

内海裕美（日本小児科医会業務執行理事）

清川輝基（NPO 子どもとメディア代表理事）

600名を超える参加があり内訳は下記のとおり。今回10回目ということで、当会主催の「子どもとメディアの問題に関する懇話会」での縁もあり、日本医師会の御協力により大講堂で開催し、今まで開催していた福岡ではWEBで中継会場を設けたが、両会場とも年明け早々にキャンセル待ちを受け付けられないほどの盛況でした。

分野	東京会場(定員 500)	福岡会場 (定員 100)
医療関係	154	13
教育関係	96	3
保育関係	32	35
福祉関係	7	1
行政関係	27	6
NPO	118	42
その他	72	2
合計	506	102

⑤日本小児科医会 2019年カレンダー作成、会員配布

10. 広報委員会

(3) 普及啓発及び支援事業

1. 機関誌発行等事業

1) 医会会報の発行(年2回)

- ① 会報第57号を発行(2019年4月30日) 6,100部作成

特集1「一般診療を見直す」

特集2「第14回日本小児科医会生涯研修セミナーから」
等を掲載した。

- ② 会報第58号を発行(2019年10月31日) 6,100部作成
特集「第30回総会フォーラム(京都)―輝かそう未来を―」
等を掲載した。

2) 医会ニュースの発行(年2回)

- ① ニュースNo.68を発行(2019年8月31日) 6,100部作成
定時社員総会、第30回総会フォーラム(京都)、理事会の議事、ブロックニュースなどを掲載した。
- ② ニュースNo.69を発行(2020年1月15日) 6,000部作成
成育基本法推進全国大会報告、執行部の年頭所感、委員会の最近の話題、ブロックニュースなどを掲載した。

2. 日本小児科学会でのPR活動

第122回日本小児科学会学術集会(金沢市、2019年4月19日～22日)の日本小児科医会ブースにて、医会報、医会ニュース、入会申込書、地域総合小児医療認定医制度(資料)などを展示、配布した。

3. その他

日本小児医事出版社が今年度をもって編集業務から撤退することとなった。

1 1 . ホームページ委員会

(3) 普及啓発及び支援事業

(1) インターネットによる情報提供

HP制作会社であるスターティア社との保守管理契約を更新し継続的な機能の維持・充実を図った。

1) ホームページ委員会の開催：2回開催

第1回	2019年6月9日(日) 9:00～12:00	京都テルサ第10会議室
第2回	2019年12月22日(日) 9:30～12:00	エイジーエス西新宿ビル204

2) 新規情報の発信

- 原則毎週火曜日にホームページ内容(一般・会員)を更新し、日本小児科医会の開催事業、セミナー・研修会や各委員会活動、小児科関連情報などを幅広く情報提供した。

記者懇談会などの日本小児科医会主催研修会については担当理事の報告及び参加レポート等を掲載した。

- 記者懇談会を取材し、レポートのHP掲載

日程	テーマ	参加者
2019年4月3日	グローバル化する社会での感染症のリスクとワクチン (https://www.jpa-web.org/blog/2019/04/09/183)	藤谷宏子業務執行理事
2019年8月7日	成育基本法の推進に向けて (https://www.jpa-web.org/blog/2019/04/09/183)	藤谷宏子業務執行理事、 武知哲久副会長
2019年12月4日	メディカル・リテラシーの向上を目指して、小児科医療の最前線からの提言『子どもの感染症、正しく知り、正しくおそれる』～メディアの方々に伝えてもらいたい小児科医のホンネ～ (https://www.jpa-web.org/blog/2019/12/10/225)	藤谷宏子業務執行理事、 武知哲久副会長

3) 一般サイトの既存情報整理・HP内容の見直し

- トップページの改訂をおこなった。

日本小児科医会からのお知らせ、小児科関連情報、研修会情報、#8000 関連情報、委員会活動、

などに分類し、簡潔に検索できるように改変した。

4) ホームページ事業の広報（一般サイト・会員専用サイト）

ア) HP の機能及び利用マニュアルを定期刊行物の誌上や、紹介するチラシ等を作成し周知した。

内容	発行時期	発行部数	利用方法
① ホームページのご案内（冊子 P12）	4 月下旬	200 部	総会会場、医会主催イベント会場に設置し広報活動に利用。
② メッセージ配信サービス開始のご案内（チラシ）	4 月下旬	6000 部	医会ニュース No.68 発送時に同梱。総会会場、医会主催イベントに設置。
③ ホームページのご案内（記事）	10 月下旬		①の冊子内容の紹介及びダウンロードメニューの案内を行った。
④ 先生のための【マイページ】をご存知ですか？（チラシ）	1 月 15 日	6000 部	医会ニュース No.69 発送時に同梱。

イ) 総会フォーラムにて HP 利用について口演を行った。また、HP 事業の広報ブースをフォーラム会場に設置し、冊子やチラシの配布、質問などの対応及びメールアドレス登録への協力を呼び掛けた。

1 2. 地域総合小児医療検討委員会

(1) 調査研究事業

- 1) 地域総合小児医療検討委員会を年 3 回開催し、地域総合小児医療認定医の到達目標を制定し、必要な研修制度、指導員のあり方について研究した。地域総合小児医療認定医制度も暫定制度から本制度に移行し、新たに 28 名の認定医の申請を受けた。審査委員会で審査後、理事会に答申し、承認された。同時に更新対象者 622 名のうち、更新 182 名、更新及び指導者申請 171 名につき書類審査し、単位の不十分であった 1 名を除き、承認された。その結果、地域総合小児医療認定医 722 名、指導者 171 名となった。

(2) 学術集会及び研修会事業

地域総合小児医療認定医のための指導者研修会を 2 回開催した。

1) 第 6 回地域総合小児医療認定医指導者研修会

日 時：2019 年（令和元年）11 月 24 日（日）

場 所：JA 共済ビルカンファレンスホール

受講者数：66 名

プログラム：

- 1.なぜ研修にワークショップなのかー実りある研修のためにー
東京医科歯科大学大学院 歯学総合診療科 竹村 洋典
- 2.「健やか親子 21（第二次）」と「成育基本法」
国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆
- 3.小児医療はこどもをもっと健康にできる～ヘルス・スーパービジョンの概念から学ぶ～
国立成育医療研究センター 総合診療部総合診療科 阪下和美
- 4.グループワーク「次世代の乳幼児健診“anticipatory guidance”を考える」
地域総合小児医療検討委員会委員

2) 第 7 回地域総合小児医療認定医指導者研修会

日 時：2020 年（令和 2 年）1 月 13 日（月・祝）

場 所：沖縄県市町村自治会館（沖縄県那覇市旭町 116-37）

受講者数：29 名

プログラム：

- 1.子ども虐待の対応

- 沖縄県立中部病院 小児科 川口 真澄
- 2.児童虐待の現場から一児童相談所の報告ー
沖縄県コザ児童相談所 所長 後野 哲彦
- 3.見えない子どもの貧困を可視化する～沖縄からの報告～
沖縄子どもの貧困解消ネットワーク 山内 優子
- 4.禁煙支援の基礎知識～子ども達をたばこから守るために～
医療法人清心会徳山クリニック 永吉 奈央子
- 5.グループワーク

(3) 普及啓発及び支援事業

日程の都合により、今年度は日本小児医療保健協議会地域総合小児医療連絡協議会を開催できなかった。

1 3. 成育在宅医療検討 WG

(1) 調査研究事業

成育在宅医療検討 WG は 2019 年度途中に、日本小児科医会理事会において小児在宅医療への関心を高め、実際に小児在宅医療に関わっていただける小児科診療所を増やしていく必要があるとのことから編成された。

来年度からの本格的な活動に備え、2020 年 2 月 23 日（日）に初回の会議を開催した。今後、以下のような内容につき議論を深める予定である。

- 1) 診療所と地域二次病院をセットで考え、地域で実現可能な小児在宅医療の受け皿のモデルを提示する。
- 2) 地域で小児在宅医療に関わる人材が顔の見える関係を構築する方策を考案する
- 3) 小児在宅医療に関するニーズを把握する。
- 4) 訪問診療経験の豊富な在宅療養診療所と開業小児科医の連携・協働体制づくりの工夫や方法などの情報共有。
- 5) 地域のニーズや事情を考慮した開業小児科医の実情の把握と医療的ケア児を診るスキルと体制の検討。

II. 法人事業

1. 内藤壽七郎記念事業

2019 年度（第 16 回）は、秋山千枝子先生（日本小児科医会理事）と神尾守房先生（日本小児科医会元理事）に「内藤壽七郎記念賞」を贈呈。

2. 各種会議の開催

- | | | |
|--------------|--------------------|---------------------------|
| (1) 定時社員総会 | 6 月 8 日（土） | 京都テルサ（2019 年度） |
| (2) 理事会（5 回） | 5 月 12 日（日） | エイジーエス西新宿ビル（2019 年度第 1 回） |
| | 6 月 8 日（土） | 京都テルサ（第 2 回） |
| | 9 月 8 日（日） | エイジーエス西新宿ビル（第 3 回） |
| | 12 月 8 日（日） | エイジーエス西新宿ビル（第 4 回） |
| | 2020 年 3 月 15 日（日） | エイジーエス西新宿ビル（第 5 回） |
| (3) 総務会（3 回） | 7 月 28 日（日） | エイジーエス西新宿ビル |
| | 11 月 3 日（日） | エイジーエス西新宿ビル |

2020年 2月 2日（日）エイジーエス西新宿ビル

（4）業務会計監査 4月21日（日）エイジーエス西新宿ビル

3. 会員の入退会

会員数 5425 名（A会員 3290 名、B会員 2127 名、個人賛助会員 7 名、団体賛助会員 1 団体）
入会者 183 名、退会者 249 名、復会者 2 名（2020 年 3 月 31 日現在）

4. 情報開発整備の実施

(1)入会促進及び会員サービスの充実化

1)ホームページの利用

ア)一般サイト

・入会促進のため一般サイト上で事業の発信を行った。

イ)会員サイト

HP 制作会社との業務契約を見直し保守管理契約を締結。継続的な機能の維持・充実を図った。

・登録情報変更等各種手続き等の各種手続きを行える機能の維持及びサービス向上を図った。

・メッセージ機能を強化しメルマガに相当する発信ツールを追加した。研修会等のイベント中止や申込推進等のメッセージ配信が可能となった。

・ウェルチ・アレン・ジャパン(株)、日本眼科医会より提供された、小児受入れ眼科施設名簿の掲載を開始した。その他、定期更新の際、各委員会や外部団体から提供される資料・情報の配信を積極的に行った。

・既存コンテンツであったアンケート機能を強化し、より汎用性を高めた。本年は国際委員会作成のアンケートを配信(回答データを CSV で同委員会へ提出)。

・ユーザーの利便性を高めるため、サイト内検索機能を追加した。

・小児科関連情報などで紹介済みのガイドラインや診療マニュアルなどを利用しやすくするため、一覧にまとめたページを作成した。

2)各種イベント会場における入会促進資料の設置・配布

・会員増強を目的に当会イベント会場等において事業内容やホームページの周知を図った。